

# わくわくな拠り所



干潮時岩礁から本建築物を望む



干潮時岩礁から休憩所を望む



インリーフから休憩所、トイレを望む



鳥瞰パース



トイレの出口は一つにまとめる

## 『望む』という行為に焦点をあてた

陸からも海からも『拠り所』となるレストスペースを提案します。

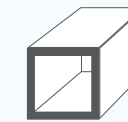
本敷地は沖縄県南部の海岸線にあり、観光客だけでなく沖縄全土からサーファーやダイバー、地元の人等あらゆる人達に人気の場所となっています。また海は遠浅となっており、弧を描くようにリーフエッジ(岩礁やサンゴ礁の際の部分)があるため、その内側は穏やかな時が多く、初心者のダイバーだけでなく多くの人が熱帯魚を直接鑑賞したり、逆に海側からこの土地を眺める事も多い場所となっています。一方で、汚れたトイレ、雑草の生い茂ったベンチ等、あまり見向きされない場所も多々あるため、整備した上で親しみのある場所づくりが必要だと感じました。そこで本計画では、親しみを持ってもらうためには興味をもつ事が必須であるため

興味を持つ=望む事

と捉え、建築・景色・人を対象に『望む・望まれる』事に着目した心地良いレストスペースを提案します。

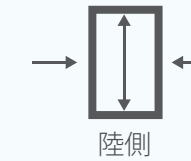
## つくりかた

1. 『望む』事を誘発するために建物を枠状にします。



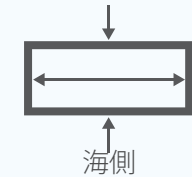
2. 機能に合わせて枠の端部の幅と高さを操作します。

【休憩所】



陸側

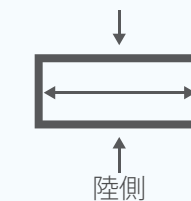
程よく狭めて入口をイメージさせ、高さを確保する事で圧迫感をなくす。



海側

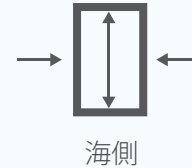
枠の高さ方向を縮めて横幅を広げる事で、海への眺望をパノラマ状に切り取る。

【トイレ】



陸側

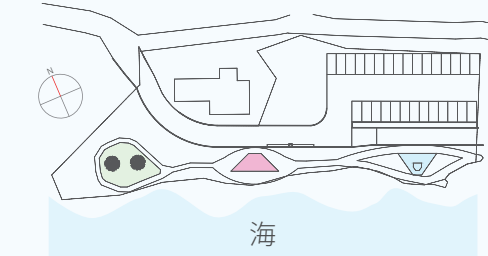
様々な人が利用しやすいように駐車場側の間口を広げる。



海側

海側の間口を狭める事で、男子トイレ・女子トイレ・多目的トイレどこからも同様の眺望を共有できる。

3. 配置の決定

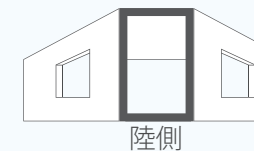


海

既存休憩所の赤い屋根は海岸線の中央にあるため、ダイバー等にとってはこの土地の目印となる。この性質を継承するために同位置に休憩所を新設する。トイレは駐車場からアクセスのしやすい東側に配置する。また西側にある既存ベンチも活かす事で、同じ海岸線でありながら場所によって違う眺望を楽しむことができる

4. 2,3 で出た要素を組み合わせます。

【休憩所】



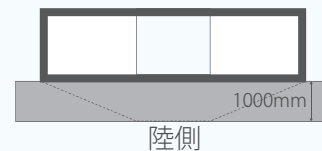
陸側

横の壁にも穴をあけ、どの角度から見ても枠状となり誘目性が増した形状となる。また、屋根は琉球ガラスの洗い出し仕上げとする。



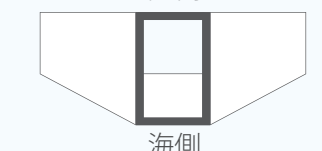
海側

【トイレ】



陸側

眺望のしやすさと排水勾配を確保するために入口レベルを1000mm上げる。



海側





②休憩所の西側 海を切り取る



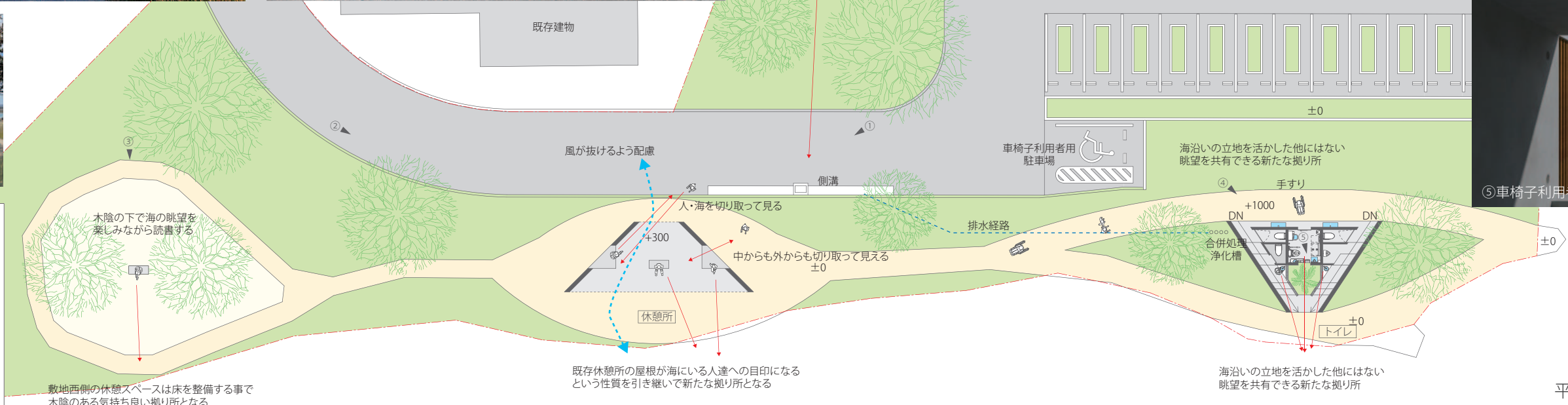
①休憩所の中の人を切り取って見る



③琉球石灰岩で整備された木陰ベンチ

【休憩所】  
 構造：壁式鉄筋コンクリート造平屋建て  
 建築面積：28㎡  
 延床面積：28㎡  
 壁仕上げ：パネコート打放しフッ素CL  
 屋根仕上げ：琉球ガラス(赤色)洗い出し仕上げ  
 床：土間コンクリート刷毛引き仕上げ

【公衆トイレ】  
 構造：壁式鉄筋コンクリート造平屋建て  
 建築面積：23.023㎡  
 延床面積：23.023㎡  
 屋根・壁仕上げ：パネコート打放しフッ素CL  
 床：土間コンクリート刷毛引き仕上げ

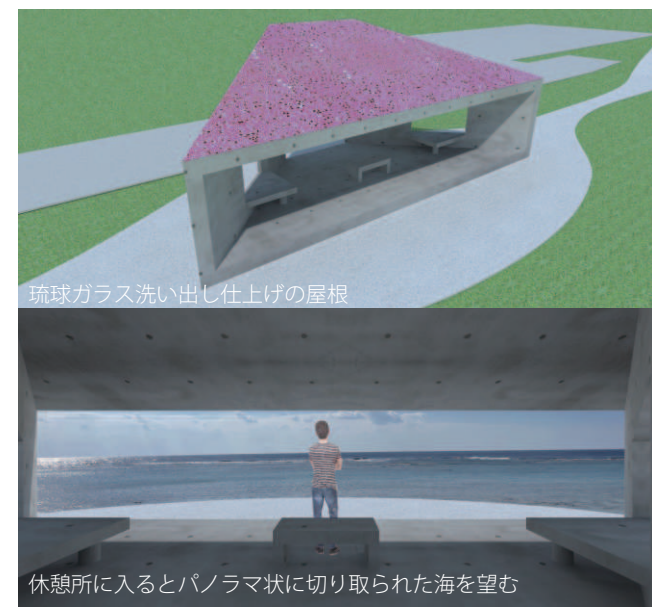
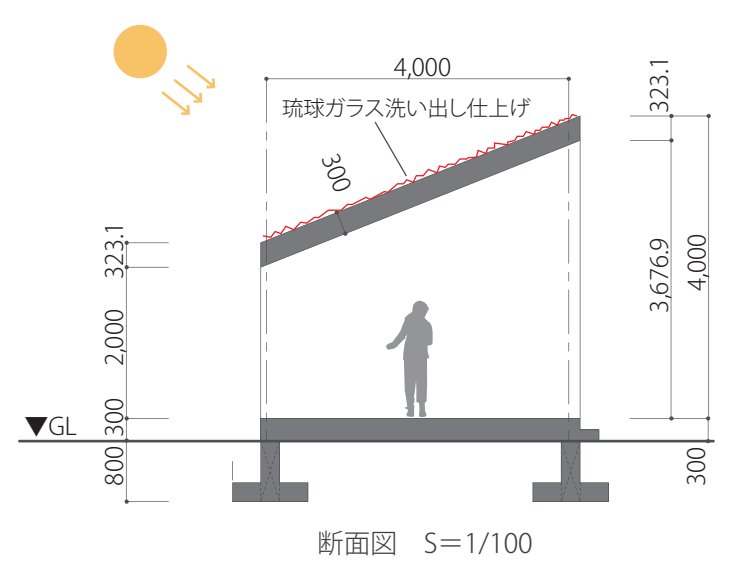


④トイレは間口を広くとり様々な人を受け入れる



⑤車椅子利用者は手洗いの際、眺望できる

## 休憩所について



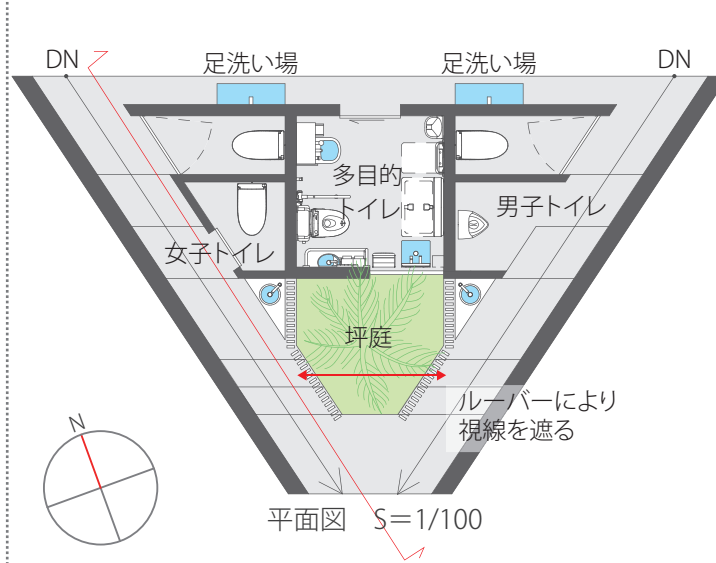
## 赤い屋根

現況の休憩所は敷地中央に配置されており、この赤い屋根を目印に大度浜海岸のリーフ内部の休憩所から真南に進んだ所にある第二プール、第三プールと呼ばれる場所に訪れる人が多い現状がある。また、岩礁の外側から本敷地に戻る際も指針としての役割も果たし海からも拠り所のような場所となっている。(左写真参照)。そのため、本計画ではその性質を引き継ぎ赤い屋根を採用している。また、塗装では経年劣化により色落ちしてしまうため、赤い琉球ガラスの洗い出し仕上げとする事でメンテナンスフリーな屋根を目指した計画とした。

## 断面計画

休憩所は敷地南側に対して天井高を下げる事で日差しを合理的に避ける断面計画とした。また、休憩所に入ると、横幅を広く確保した南の開口部より、海への眺望が他の場所と違いパノラマ状に切り取られるので、絵画的に楽しむ事が出来る(上部CG画像参照)。なお、東西方向に変化する壁に加え南北方向に変化する屋根により空間の立体的な変化を楽しむことができる。

## トイレについて



トイレは北側から南側にかけて下りていく断面計画となっているため、自然と南側に誘導される計画としている。また、多目的トイレからは手洗いの際に直接海を眺望することができるため、このトイレはどこから利用しても平等に眺望を楽しむことができる。なお、建物中央に坪庭を設けているため、内部は暗くならず快適に利用できる計画としている。

